

経営比較分析表（令和6年度決算）

佐賀県 有田町

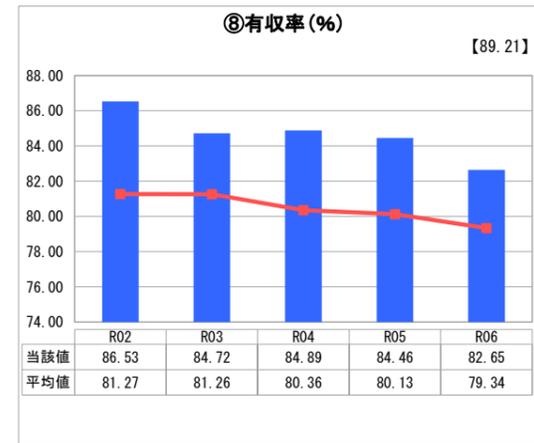
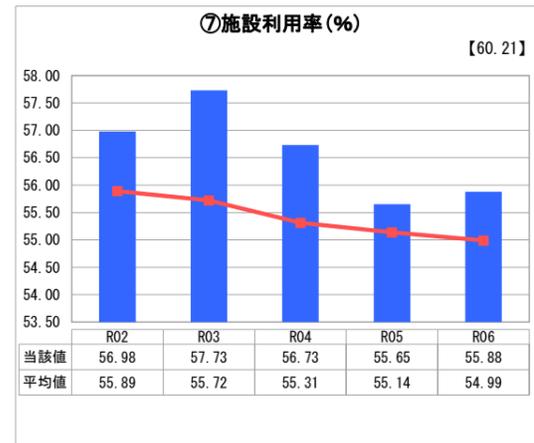
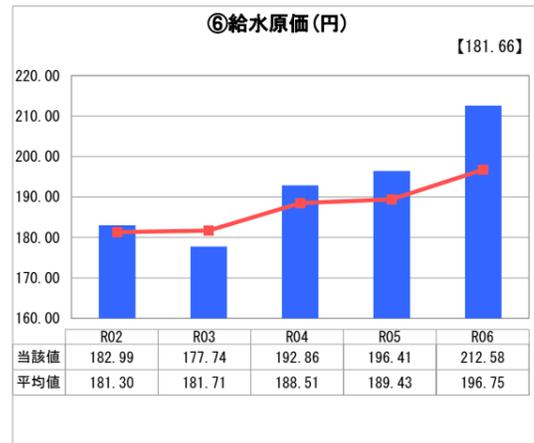
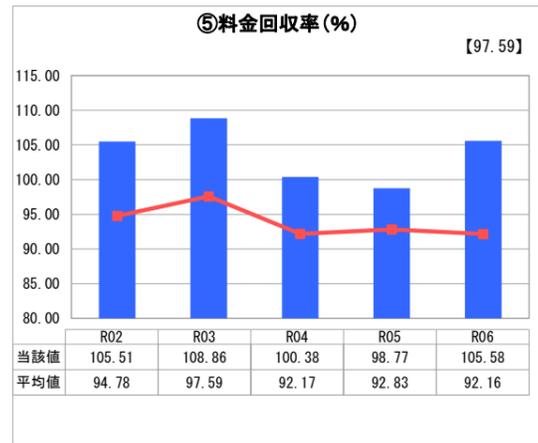
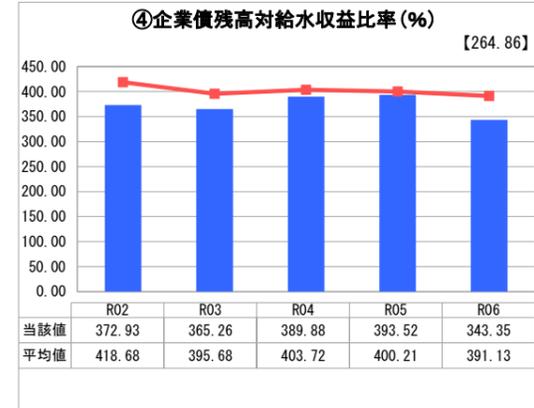
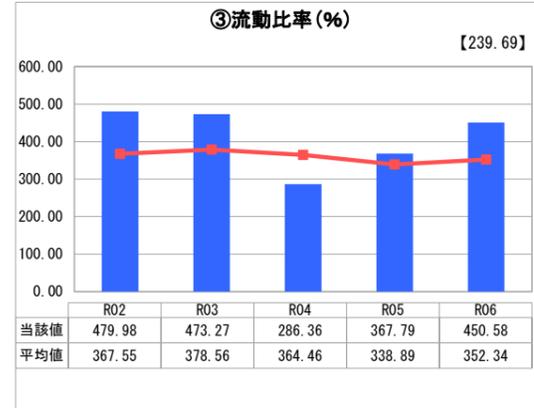
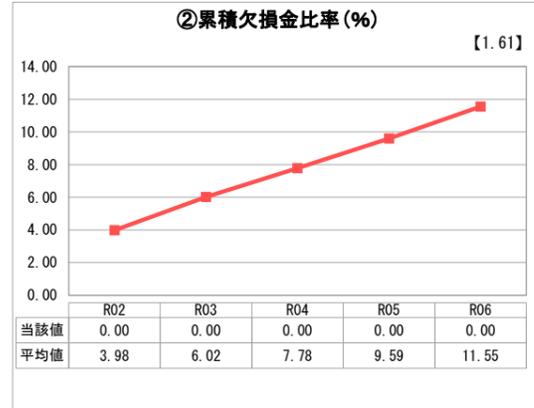
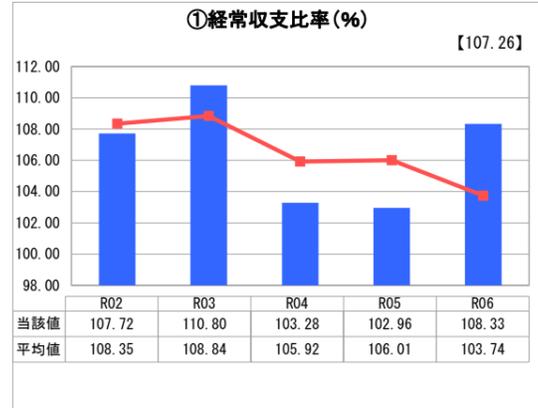
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	73.91	99.56	4,451	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,539	65.85	281.53
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
18,317	65.80	278.37

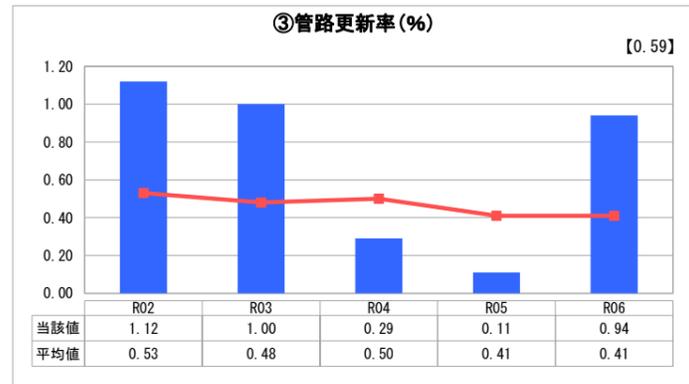
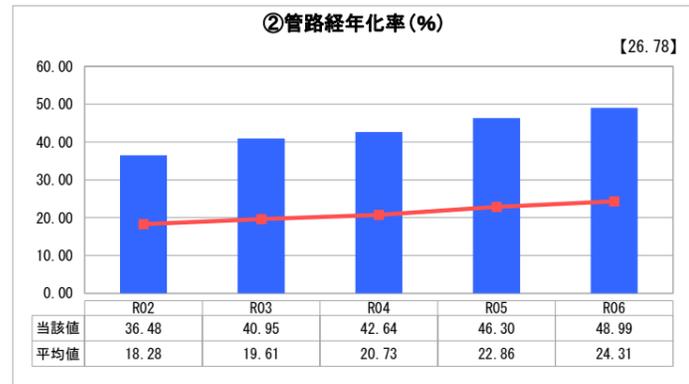
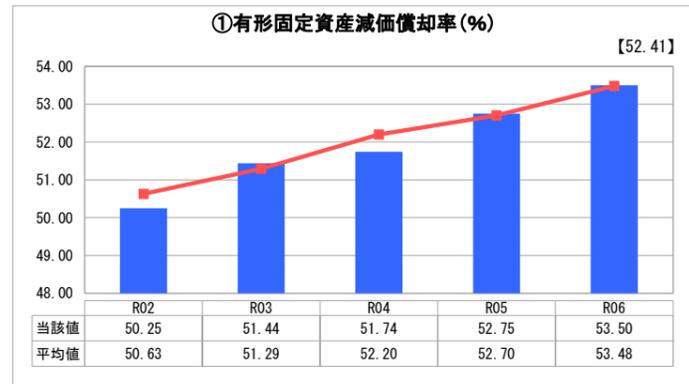
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率**
R6年度より料金改定をしている。新規加入による接続の増加はあるものの、人口減少により有収水量は減少傾向にある。
- ② 累積欠損金** 計上していない。
- ③ 流動比率**
R6年度からの料金改定による現金の増加や年度内の支払いが増加したことによる未払金の減少などにより流動比率は増加している。
- ④ 企業債残高対給水収益比率**
管路の布設替えによる新規の企業債借入と元金償還額との差により企業債残高が減少しており、R6年度からの料金改定により給水収益が増加しているため比率としては減少している。
- ⑤ 料金回収率**
動力費や人件費などが増加傾向にあるが、R6年度から料金改定を行っており、給水収益の増加が費用よりも大きかったため、料金回収率は増加している。
- ⑥ 給水原価**
有収水量は減少しているが、相応分の費用は増加しており、単価が上昇している。
- ⑦ 施設利用率**
人口減少に伴い有収水量が減少しているが、配水量は増加している。その背景として、漏水などによる配水量の増加が想定される。
- ⑧ 有収率**
人口減少により有収水量は減少しているが、配水量は増加しているため、漏水などによる悪化が想定される。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率**
耐用年数の経過に対し、管路の更新が追いついておらず、増加している。更新計画を基に、効率的な更新を図る必要がある。
- ② 管路経年化率**
管路の更新に取り組んでいるものの、耐用年数の経過に対し、更新が追いついていない。
- ③ 管路更新率**
法定耐用年数を経過した管路が増加しており、更新が追いついていない。人口減少や漏水が多発する区域など現状を踏まえ更新する管路の区域を検討し費用対効果も踏まえた計画が必要である。

全体総括

管路の更新が喫緊の課題である。公営企業の前提として、料金収入により維持費を賄う必要があるが、燃料費や通信運搬費などの高騰により費用の増加が大きく、経営は厳しくなる事が想定される。国庫補助制度の活用や起債の借入を行いながらできるだけ効率的に施設や管路の更新を実施していく必要がある。一方で、人口減少により料金収入の大幅な増収は望めない中で今後の更新の財源として借り入れる企業債の元利償還金が、将来的な負担の増加となることが懸念されるため、老朽管の更新などにより、有収率を増加させ、修繕費等の費用の削減を図り、水道使用者への負担が大きくなりすぎないように配慮しながら料金改定を行っていく必要がある。